

安全データシート ~ Safety Data Sheet

CT-Pro20 用 パラフィン・スティック

1. 製品および会社情報

製品名	: CT-Pro20 用 パラフィン・スティック
製品番号	: CT-PARA-ST
推奨用途	: CT-Pro20 専用のパラフィンブロック作製用包埋剤
使用上の制限	: 上記の用途以外で使用しない
会社名	: ジェノスタッフ株式会社
住所	: 〒113-0032 東京都文京区弥生 2 丁目 5-8 GSビル
電話番号	: 03-5615-8857
FAX 番号	: 03-5615-8858
電子メールアドレス	: support@genostaff.com

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分 2B

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分 3 (気道刺激性)

(注) 記載なき GHS 分類区分 : 該当しない/区分外/分類対象外/分類できない

GHS ラベル要素

絵表示 :



注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 : H320 眼刺激
H335 呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

- 【安全対策】 : 粉じん、ヒュームの吸入を避けること。(P261)
取扱い後は手や顔などをよく洗うこと。(P264)
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
- 【応急処置】 : 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
気分が悪い時は、医療処置を受けること。(P319)
眼の刺激が続く場合、医療処置を受けること。(P337+P317)
- 【保管】 : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)

施錠して保管すること。(P405)

【廃棄】 : 内容物／容器を関連法規並びに地方自治体の基準に従って廃棄すること。(P501)

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 単一製品

化学名	含有量	分子式	化審法官報 公示番号	安衛法官報 公示番号	CAS番号
固形パラフィン	100%	C _n H _{2n+2}	(8)-414	公表	8002-74-2

分類に寄与する不純物または安定化添加物 : 非該当

4. 応急措置

- 眼に入った場合 : 水で数分間、注意深く洗う。
コンタクトレンズを容易に外せる場合は、外して洗う。
眼の刺激が持続する場合は、医療処置を受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐ。
気分が悪いときは、医療処置を受けること。
- 吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息する。
気分が悪いときは、医療処置を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 速やかに皮膚を多量の水と石鹼で洗浄する。
皮膚刺激が生じた場合や気分が悪いときは、医療処置を受けること。
- 予想される急性症状及び遅発性症状 : データなし
- 最も重要な兆候及び症状 : 眼、鼻、のどを刺激する。
- 応急措置をする者の保護 : 状況に応じて適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類を使用すること。
- 使ってはならない消火剤 : 火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状放水を避ける。
- 特有の危険有害性 : 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。
激しく加熱すると燃焼する。
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。
- 消火活動を行う者の保護 : 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- ： 全ての着火源を取り除く。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
密閉された場所に立入る前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 環境中に放出してはならない。
- 回収・中和 : 漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。
- 封じ込め及び浄化方法と機材 : 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
- 二次災害の防止策 : すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

- 技術的対策 : 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 安全取扱注意事項 : 取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
眼に入れないこと。
- 接触回避 : 『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管

- 保管条件 : 容器を密閉して冷乾所にて保存すること。
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。
- 混触危険物質 : データなし
- 容器包装材料 : 遮光した気密容器

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。
- 許容濃度
 - 日本産業衛生学会 : 設定されていない (2009 年版)
 - ACGIH : TWA; 2mg/m³ fume (2009 年版)
- 設備対策 : 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
- 保護措置
 - 呼吸器用保護具 : 適切な呼吸器保護具を着用すること。
 - 手の保護具 : 適切な保護手袋を着用すること。
 - 眼の保護具 : 適切な眼の保護具を着用すること。
 - 皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。
- 衛生対策 : 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

外観(色、濁度、性状など)	: 白色の固体
臭い	: 無臭
pH	: データなし
融点・凝固点	: 46～68°C ACGIH(2001)
沸点、初留点及び沸騰範囲	: 204～400°C(C20 以上) PATTY(5th, 2001)
引火点	: 199°C(open cup) ICSC(2003)
自然発火点	: 245°C NFPA(13th, 2002)
燃焼性(固体、ガス)	: データなし
燃焼又は爆発範囲	: データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度(空気=1)	: データなし
比重(密度)	: 0.9(水=1) NFPA(13th, 2002) 0.90g/cm ³ (20°C) GESTIS(Access on April 2009)
溶解度	: 水に不溶 ACGIH(2001) アルコールに不溶、ほとんどの有機溶媒に可溶、ワックス、鯨ろう/油脂(加熱)に混和 ACGIH(2001) ベンゼン/クロロフォルム/エーテル/二硫化炭素に可溶 Sax(11th, 2004) 油脂に混和 Sax(11th, 2004)
オクタノール・水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
粘度	: データなし
粉じん爆発下限濃度	: データなし
最小発火エネルギー	: データなし
体積抵抗率(導電率)	: データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	: 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性	: 可燃性である。 熱、酸、アルカリ、光に対して安定。
避けるべき条件	: データなし
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: データなし

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	: ラットの LD50 値 > 5000 mg/kg (IUCILID(2000))、> 3750mg/kg (IUCILID (2000))に基づき区分外とした。
経皮	: ウサギの LD50 > 3600mg/kg (IUCILID2000)に基づき、JIS 分類の区分外(国連分類基準)

- の区分 5 または区分外)とした。
- 吸入 ガス : GHS の定義における固体である。
 蒸気 : データなし
 粉塵 : データなし
- 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : ウサギを用いた Draize 法による 2 試験において、24 時間適用で「not irritating」と「slightly irritating」の結果があり〔何れも IUCLID(2000)〕、また 20 人のボランティアでの皮膚刺激性試験の結果、1 人にわずかな紅斑が認められた以外、他の 19 人は刺激性を示さなかったとの報告がある〔IUCLID(2000)〕。以上の結果に基づき、区分外とした。
- 眼に対する重篤な損傷及び眼刺激性 : ウサギを用いた Draize 法類似試験において、軽度 (slightly) の刺激性 (IUCLID(2000)) およびウサギの標準 Draize 試験において軽度 (mild) の記述 (RTECS(2008)) に基づき、区分 2B とした。
- 呼吸器感作性 : データなし
 皮膚感作性 : データなし
 生殖細胞変異原性 : in vivo 試験のデータがなく分類できないとした。なお、Ames 試験 (in vitro 変異原性試験) で陰性の結果がある (農薬安全情報(1992))。
- 発がん性 : ラットに 2 年間経口投与した試験で、腫瘍の発生率は対照群と比較して差は認められなかったとの報告があり、長期毒性試験における、実験動物に対するパラフィン是非発がん性であるとの記述がある (JECFA(1993))。また、ウサギ・マウスの 2 年間経皮試験では、発がん性は認められていない (EHC20(1982)) との報告もある。しかし、経口投与による試験では動物 1 種のみ試験データしかなく、区分外とするには疑義が残るため「分類できない」とした。
- 生殖毒性 : データなし
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : ワックスヒュームは眼・鼻・のどに軽度 (mild) の刺激性 (PATTY5th(2001)) に基づき、区分 3 (気道刺激性) とした。
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : ラット 90 日間経口投与試験 (0, 160, 1600 mg/kg/day) において、赤血球と血小板の減少、肝細胞の空包化、肉芽腫の発達、壊死、腸間膜リンパ節における肉芽腫の発現、細胞の過形成、頸部リンパ節における肉芽腫の発現、心臓僧坊帽弁の基部におけるリンパ球様細胞浸透の増加 (JECFA 1056(2003)) などの所見が用量依存的に見られたが、区分 2 のガイダンス値以下で試験が行われていないためデータ不足により分類できない。
- 吸引性呼吸器有害性 : データなし
- その他情報 : この製品及び構成成分の人の健康への影響に関するデータは不十分なため、最大の注意を払う必要がある。

12. 環境影響情報

生態毒性

- 水生環境有害性 (急性) : データ不足のため分類できない。
 水生環境有害性 (慢性) : データがなく分類できない。
- その他情報 : この製品及び構成成分の自然環境への影響に関するデータは不十分なため、最大の注意を払う必要がある。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
- 汚染容器及び包装 : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

- 国際規則
- 海上規制情報 : 該当しない
- 航空規制情報 : 該当しない
- 国内規則
- 海上規制情報 : 該当しない
- 航空規制情報 : 該当しない
- 陸上規制情報 : 該当しない
- 特別安全対策 : 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

- 労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険有害物(法第 57 条、施行令第 18 条別表第 9)
名称等を通知すべき危険有害物(法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9)
リスクアセスメントを実施すべき危険有害物(法第 57 条の 3)
- 消防法 : 該当しない
- 毒物及び劇物取締法 : 該当しない
- 化管法(PTR 法) : 該当しない
- 麻薬及び向精神薬取締法 : 該当しない
- 航空法 : 該当しない
- 危険物船舶運送及び貯蔵規則 : 該当しない
- 水質汚濁防止法 : 該当しない
- 海洋汚染防止法 : 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第 1)

16. その他の情報

- SDS の作成と改訂 作成 : 2021 年 10 月 1 日 SDS-020-R1.0
改訂 :
- 引用文献 : データごとに記載した。
- 免責事項 : 記載内容は現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資



料を網羅した訳ではありませんので、化学物質の安全性の指標としてのみお使いください。また、この記載内容は情報提供を目的としており、当該化学物質の取り扱い上のいかなる保証をなすものではありません。